

# 3 部落差別(同和問題)の現状

## いまだに残る差別意識

同和地区と他の地域との格差は、長年にわたる国や地方公共団体などによるさまざまな取組みの結果、相当程度解消されました。

しかし、その一方で、身元調査やインターネット上の差別的な書き込みなどに見られるように、同和問題(部落差別)に関する差別意識は依然として解消されていません。こうした差別意識の解消のために、人権の擁護という視点から、広く国民に対し、啓発を進めることが重要です。



## ■結婚差別

例えば、あなたが自分の生まれ故郷を結婚相手に言えないとしたらどうでしょうか。

出身地を理由に結婚を反対されたり、婚約中にこっそりと身元調査をされたらどう思いますか。

2022(令和4)年に内閣府が行った「人権擁護に関する世論調査」では、「部落差別・同和問題に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか」という問いに対して一番多かった答えが「実際や結婚を反対されること」でした。

結婚は人生の重要な節目ですから、それが差別意識によって妨げられるとすれば当事者の心は大きく傷付きます。

普段「自分は差別などしない」という人でも、いざ身内の問題になると正しい判断ができなくなることがあります。この問題は、まさしく一人一人の人権を尊重するという意識が試される問題といえます。